

1. 授業の基本情報・概要

本授業は、学生にとって生まれて初めての日本語学（国語学）の授業であり、かつ、国語科教員免許の必修科目である。昨年度の報告において「一般的包括的」内容が求められる本授業において、地域語である愛媛方言を大きく扱うことは時間的制約から難しいと述べた。必修科目では「一般的包括的」内容を最重要視し、地域語・方言については別の授業（「特講」）で扱えばよいという考え方も可能であるが、日本語学関係の科目を本授業しか取得しない可能性があることから、何とか地域と「一般的包括的」内容とを両立させたいと考えている。ただし、報告者はこれまで、高校までの国語では、ほとんど扱わない音声・音韻の領域に時間を多く割いてきたことの反省もあって、一部の領域に偏らないように「改善」することを最優先事項と考えた。

本年度の受講生は、51名、アンケート回答者は35名だった。

2. 15回で日本語を概説するために

従来、「音韻・音声」と「文字・表記」を中心に授業を構成してきた。「音声言語に関する」内容と「文章表現に関する」内容を含むことが明記されていることから、「文字・表記」に関わる事柄を文章表見に絡めて講義してきた。しかしながら、この授業で日本語学は終了の学生が存在するならば、もっと広い領域まで扱わなければ「一般的包括的」内容とは言えないのではないかと。本年度は、「音声・音韻」の部分の圧縮し、その分を他の領域へ回そうと努力した。結論から言うと、この試みはうまくいかなかった。昨年度から、音声・アクセントを取り上げる際、東京方言と比較するかたちで愛媛方言を取り上げたが、それを継続しつつ、「音声・音韻」の時間を圧縮するのは難しかった。以下のアンケート結果からそうとらえている。

3. 授業評価の内容

DP対応の学生授業評価アンケートの結果を、以下に挙げる。（1～4は評価）

	1	2	3	4
DP 1 知識	05	18	02	00
DP 2 技能	06	22	05	00
DP 3 思考・表現	05	24	02	02
DP 4 主体的学習・社会貢献	08	19	04	02
授業外学習課題	1.21 時間			
授業外学習自発	0.92 時間			
自発的読書	0.36 冊			
自発的活動	0.00 件			

DP 1～4の全項目で、昨年度より評価1「とてもそう思う」が減少している。特に、授業の目的からすれば、DP 1, 2については、評価1がもっと多くならなければならない。また、昨年度同様、DP 3, 4に評価4が2名ずつ居た。これも反省点である。

評価1が減った原因の一つに、先に挙げた「圧縮」があったのではないかと考えている。実は、次年度はさらに「音声」を圧縮し、他の領域まで広く扱おうと考えているので、この結果を活かして、高い評価の得られる「一般的包括的」内容を目指したい。

一方、昨年度より良くなった点もある。授業外学習課題（予習復習）の時間が平均0.96h→1.21h、授業外学習自発（予習復習以外）が平均0.43h→0.92h。やや課題を増やし、書籍なども紹介したからであろう。

4. 総括

必修科目「日本語概説」の授業改善は、内容の精選と授業の工夫であると理解し自覚している。「一般的包括的」内容と言えるものであるとともに、愛媛の教員として母方言への高い興味・関心を持つきっかけとなる授業にしたい。次年度は、受講生にとって最もインパクトの大きい音声領域の配分時間を、さらに小さくする予定である。それによって、魅力を低下させるのではなく、各領域において、うまく愛媛方言を取り上げ、愛媛の教員を目指す学生のための必修科目にふさわしいものにしなければならないと思う。試行錯誤がもう数年続くかもしれないが、諦めずにトライしたい。